

令和2年度 学校評価 自己最終評価①（教科指導）

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
教務部 教科指導	①学習習慣の確立	<p>①学習意欲の個人差が大きく、生徒の学習活動が教員の主導によるところが大きい。学習指導に対して、生徒の素直に取り組む雰囲気は確実に向上している。結果として、学期末の学習指導の対象者は大きく減少した。</p> <p>②授業態度に関する講話を集会時等に頻繁に行い、定期考査ごとに改善の必要な生徒への指導も新たに実施した。全体的には向上した感があるが、一部の学級では改善がみられず学校全体で指導を行うことがあった。</p> <p>③家庭学習を普段全く行わない生徒が依然として半数もいる状況である。考査前の学習状況はやや改善した。</p> <p>④感染症の影響か貸出数が増え、読書に親しむ生徒が微増した。しかし、読書習慣のない生徒もまだ多い。</p>	2	<p>①学習と進路実現の関連性を意識させる具体的な方策(進路ガイダンスや教育相談など)をより充実させ、学習の必要性を生徒自身が認識することで、長期的な学習活動への改善につなげたい。</p> <p>②授業態度に問題が生じた場合の、学校としての組織的対応を、予め検討する機会を設定しておく。特定の学級や個々の教科指導者のみの問題ではなく、学校全体のものとして捉える意識が不可欠である。</p> <p>③保護者に対して、積極的な情報提供を行うとともに、家庭学習の習慣づけへの協力を求める。</p> <p>④生徒の主体的な読書とのバランスをとりながら、一斉読書や放送を使った朝読書を行う。</p>
	②基礎学力の定着と向上	<p>①入学時に義務教育学力の未定着者の割合は4割と減少傾向にある。それをふまえた授業の展開がなされているが、上位生徒への指導は個別にならざるを得ない状況がある。</p> <p>②基礎学力の定着をみる「基礎力診断テスト」の分析を行い、職員全体への情報共有を図った。また、学び直し教材の「マナトレ」の提出日と指導時間を設定し、確実な活用に取り組んだ。</p> <p>③考査後の訂正やレポート提出に対しては、学習内容の定着を図る上で全ての教科で重要視しており、粘り強く指導を行っている。</p> <p>④生徒のリクエストをきいて本を購入するなど、興味関心を高める取り組みをしたが、まだ不十分である。</p>	2	<p>①校内の情報教育環境の整備を受けて、ICT機器を活用した授業展開が来年度から可能となる。それに関する研修を学校全体で計画的に行う必要がある。</p> <p>②今年度から行っている実力考査での個人の学力の推移を、定期考査を含めて分析を行う。教育相談等で、個々の学習状況への具体的なアドバイスをする。</p> <p>③生徒への読書の働きかけに加え、担任や教科担当にも図書館を利用していただく機会を増やしていく。</p>

令和2年度 学校評価 自己最終評価②（生徒指導）

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
生徒指導部 生徒指導	③基本的な生活習慣の確立	①クラスによって差はあるが、実習や授業の開始など、しっかり指導できていた。 ②校外での本校生に対する苦情は少なかったが、校外におけるマナー指導は今後も課題である。	3	①教員側からの積極的な働きかけで、校内におけるあいさつや会釈を改善したい。
	④交通違反・問題行動の減少	①問題行動、交通違反の件数は昨年並みだが、1・2年生の指導件数は例年に比べ少なかった。「開発的生徒指導」の取り組みの成果が出てきていると思われる。	3	①日常的な声かけに全職員で取り組みたい。
	⑤保護者・地域との連携	①来校してもらっての情報交換等はできなかった分、学校からの便りを活用した。 ②支援を要する生徒について、更に保護者や中学校側との連絡体制を整える必要がある。 ③情報交換について、必要に応じてこまめに行政機関とも連携をとっている。	3	①合格者集合等で、学校側の相談窓口についての案内を行う。 ②生徒指導部内で連携し、中学校訪問で得た情報等の共有を図る。
	⑥不登校・いじめ問題への支援体制	①支援体制の運用について整理を行い、組織的な対応について共通理解を図った。 ②適応委員会の実施については、状況次第ではあるが、担任への働きかけや実施のタイミング等について、積極的に検討する必要がある。 ③各係内や担任との連携を密にし、生徒の把握に努めている。楽しーと、支援シート等を通して支援体制をとるように努めた。 ④いじめ問題を考える週間、交通安全を考える会、命の大切さを学ぶ教室等を利用し、倫理観や道徳観の醸成に努めた。	4	①適応委員会の実施については、状況に応じて担任と連携を図っているが、特に1学期の6月や2学期の10月などを目安に、更に積極的な連携を図る。

令和2年度 学校評価 自己最終評価③（進路指導）

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
進路指導部 進路指導	⑦進路意識の高揚	<p>①進路指導室前に、進学（学校説明会・オープンキャンパス）・公務員・就職試験関係の情報を掲示しながら、担任を通して情報提供を行った。また、進路指導委員が中心となった求人情報の発信（各クラスへの求人票の配布）を適宜行うことができた。進路に対しての意識の差が個々で見られた。</p> <p>②3年生の生徒情報を共有しながら指導を展開することができ、個別面談も充実させることができた。</p> <p>③1・2年生の担任との連携が弱く、その結果、個別面談も不十分となった。</p>	3	<p>①生徒理解や進路指導に関するスキルを向上させる。</p> <p>②進路情報をより共有化（電子化）できるようにする。</p> <p>③各学年、学科との情報を共有できる機会を設定する。</p>
	⑧職業観・勤労観の育成	<p>①コロナウイルス感染症の影響でインターンシップの実施は見送られたが、今年度も厚生労働省主催の就職ガイダンスを、感染対策をしながらも実施でき、就業への意識を高めることができた。</p> <p>②合同LHRや3年生対象の面接指導ガイダンス就職・進学合同説明会（2年生中止）、パズルワーク（1年生）などを実施した。1・2年生を対象とした県産業立地課主催の県内企業説明会、出水市産業振興部シティーセールス課主催の市内企業説明会の計画、実施。</p>	2	<p>①早めの情報収集や連絡をしながら計画していく。</p> <p>②ガイダンスの内容・実施方法を綿密に検討する。</p>
	⑨進路実現	<p>①3年担任を中心に各科の協力をもらい、SPI・一般常識試験対策や面接指導を行った。特に就職を希望する生徒に対しては、進路指導部による評価面接を2回実施し、その際にも個別面談を行った。</p> <p>②今年度は職場開拓はほとんどできず、電話連絡やリモートでの対応となった。</p> <p>③就職対策協議への参加や職業安定所の訪問を通して、情報交換等を適宜行い、協力体制を整えることができた。</p>	4	<p>①昨年より求人数が減り、進路選択に影響の出る生徒が出てくるため、より適切な面談等が必要。</p>

令和2年度 学校評価 自己最終評価④（保健指導）

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
保健部 保健指導	⑩生徒の健康管理	<p>①コロナ禍の中，身体測定を学年毎に実施するなど密にならないよう工夫するなど，各種検診を円滑に実施することができた。職員の負担は大きい場面があった。</p> <p>②全体の集会などの場で，感染症対策について，繰り返し注意喚起をおこなった。</p> <p>③講演などは講師の派遣が困難で，性に関する講演会など実施できなかったものもあった。</p>	3	<p>①検診などすべて，今年度の反省を検討し，係を中心に全職員で協力して実施できるようにしていく。これまでのやり方とは変えていく必要があると感じる。</p> <p>②治療率はなかなか改善されていないので，引き続き家庭への連絡を行っていく。</p> <p>③今年度実施できなかった講話などについては，来年度に実施できるように計画する。</p>
	⑪生徒の体力づくり	<p>①体育や部活動，空き時間の運動など，広く運動に親しむ生徒が多かった。体育でのトレーニングも，体力向上だけでなく，集団行動の意識にもつながった。</p> <p>②持久走大会は中止となってしまったが，体育祭は午前開催にしたり，プログラムの見直したりするなどして実施することができた。</p>	4	<p>①ルールを守らせることや道具の使い方などを，さらに周知徹底していく。</p> <p>②体育祭は，コロナ禍のためさまざまな対応を行った。反省や意見を参考に，良かった点を引き継ぎ，改善点を来年度に生かしていく。</p>
	⑫安心安全な環境づくり	<p>①コロナ対策として，マスクや消毒用アルコール，非接触型体温計など購入し，学校全体で活用した。</p> <p>②避難訓練は2回実施することができた。消防隊の派遣要請ができなかったため，映像をみせるなどして対応した。</p>	3	<p>①感染症対策などに必要なものを，しっかりと集約・把握をして必要な備えをしていく必要がある。</p> <p>②危機管理の手引きの作成と原子力防災マニュアルの見直しを行う。</p> <p>③防火防災係の人員を増やし，災害に備えて校内体制を充実する。</p>

令和2年度 学校評価 自己最終評価⑤（工業教育）

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
工業科 工業教育	⑬教科指導の充実	①それぞれの専門性を活かした教科指導を行い，進路実現に向けての個々の指導も充実できた。	3	①今後，新型コロナによって社会状況が変化してことも予想され，早いうちから進路に対する意識付けを行った方が良いと思われる。
	⑭ものづくり教育	①座学・実習を通し，ものづくりへの興味や関心が高められるようにした。コンテスト等への参加や結果に反映され，概ね達成されたと思う。	3	①コンテストでの上位入賞を達成することで，多くの生徒がさらに関心を持ち取り組んでくれると考える。
	⑮資格取得への取り組み	①1年次より多くの資格試験にも挑戦させる事で，資格取得に対する考え方も浸透し，自ら取り組む姿勢が見えてきた。	3	①多くの資格に関心を持つことは大切ではあるが，補習ありきの取得ではなく，各個人で取り組みでの取得を目指していければと考える。
	⑯各種行事参加	①中間報告でも評価したが，コロナ禍により多くのイベント等が中止となり，学校としてのアピールが少なかった。ただ，出水市大産業祭への参加ができ，工業人としての活動は発表できたのではないかと考える。	3	①コロナ禍の中でも実施できるイベントなどを模索して行く必要があると思われる。

令和2年度 学校評価 自己最終評価⑥（全般）

【評価】4:十分達成できている 3:概ね達成できている 2:やや不十分である 1:不十分である

	評価項目	成果と課題	評価	改善策
関連分野 全般	⑰社会に貢献する人材の育成及び生徒募集	<p>①個々の職員は教育活動全般を通して心に届く指導に努めているが、組織としての力が生かされていない一面がある。</p> <p>②清掃も年間通してよく取り組んでいた。挨拶や服装については外部からの評価は良好であるが、まだまだ改善の余地がある。</p> <p>③資格取得の取組が全体的に向上した。出工タイムの取組や基礎力診断テストの活用についても、効果が出つつある。</p>	3	<p>①情報共有や共通理解を図り、協力体制を推進し組織力の向上を図る。</p> <p>②生徒会活動や生徒指導等を通して、自主性や自己指導能力の育成に努める。</p> <p>③学力測定ツールの活用による基礎学力定着のサイクル構築を推進する。</p>
	⑱教育環境の整備	<p>①教室の清掃・整理は全体的に良好であるが、クラスによって差がある。実習室の整理・整頓は適切に行われている。</p> <p>②月1回の安全点検基準日を設けており、点検の意識が向上してきている。</p> <p>③進路実現に向けた計画的な教科指導や特別活動を積極的に行い、就職・進学希望者全員の内定を得ることができた。</p>	3	<p>①週番による点検結果のフィードバックを確実にを行い、教室の環境整備に努める。</p> <p>②安全点検簿による点検を行い、危険箇所の把握等に努める。</p> <p>③進路指導と生徒指導、教科指導の更なる連携を図り、学力向上やコロナ禍での進路状況を把握する。</p>
	⑲情報セキュリティポリシーの遵守	<p>①文書管理は概ね適切に行われているが、一部に文書引継や廃棄が行われていないところが見られた。</p> <p>②校内LANを活用したデータの保管と活用を行いながら、情報セキュリティに関する情報提供を繰り返し行い、管理の徹底に努めた。</p>	3	<p>①年度初めに文書管理の周知徹底と定期的な確認を行い、規定に基づく管理と保管及び廃棄を徹底する。</p> <p>②文書管理規定に基づく文書の保存・廃棄を徹底する。</p>
	⑳服務規律の確保と資質の向上	<p>①出工コンプライアンス及び自己点検表によるセルフチェック、県教委通知や新聞記事等を用いて意識の高揚に努めた。</p> <p>②不祥事根絶に向けた学校スローガンを職員室及び会議室に掲示し、意識の高揚を務めた。</p>	3	<p>①取組がマンネリ化しないよう、新たな方法や情報提供に努める必要がある。</p> <p>②働き方改革や学習指導要領の改訂に伴う教育活動の見直しを通して、使命感や規範意識を改めて考えていく。</p>